五中だより

府中市立府中第五中学校
校長　酒井　　泰
令和２年８月２８日 No.８

勉強をする意味

「○○を勉強して何の役に立つんだろう」「○○の学習は意味があるのかな」などと誰しも思うものです。学校があり、時間割が決められ、この時間は○○の勉強、次の時間は○○の教科、予習と復習にも取り組むことを当然のこととして受け入れて生徒たちは毎日を過ごしています。この「○○を勉強して何の役に立つんだろう」との問いは決して勉強をしたくないという後ろ向きの気持ちではなく、むしろこの疑問にきちんと答えを出しながら学習をしていかなければならないという、とても大切な学習の根本が示されています。教員は、日々の授業で常に自らの担当する教科を学ぶ意味について生徒に問いかけ、気づかせながら指導をしていくことが大切です。「今、学んでいることは、日々の生活とどのように関連があるのか」などを丁寧に示しながら指導していくことは、生徒に学習内容をより身近なものと感じさせ、理解と定着が図られる入り口となります。単に興味・関心がわくということにとどまらず、生徒にとって「生きた知識」「生きた知恵」になって身に付いていきます。教科書に書いてある出来事や定理を暗記することが学習と感じているのでは、つまらなく、その時は「分かった」、「身に付いた」と思ってもすぐに忘れてしまうことが多いのではないでしょうか。直接でないにしろ、物ごとの捉え方、考え方、人との付き合い方などを学校での教科等の学習を通じて学ぶことになります。

今、生徒は「勉強しておけばよかった」と少し後悔を覚えるのは、テストの時ぐらいかもしれません。勉強することの意味を深く考えることなく、単にやらないと叱られるという思いで勉強をしているかもしれません。「何のために勉強するのかということを考え、学習に取り組む」ことがとても大切なことだと思います。「あの時、勉強しておけばよかった」と将来大人になった時に思うことがないように、中学生のこの時期に精一杯学習に取り組んでほしいと思います。すべては自分のためです。

２学期のスタートに当たって

８月２４日（月）に２学期が始まりました。放送による始業式となりましたが、校長式辞として、生徒に次のような話をしました。

「わずか１６日間の夏休みが終わりました。今日から２学期が始まります。まず始めに、今日、元気に皆さんが登校してくれたことを大変うれしく思います。今年の夏休みは、例年にも増して暑い日が続き、熱中症が心配される日々が続きました。楽しみにしていた部活動も中止になったり、活動内容が変更になったりしたこともあったと思います。体調を崩した人はいないでしょうか。今日は、少し気温が低くなっていますが、これからも暑い日が続くと思いますので、体調維持にくれぐれも留意してください。

私は１学期の終業式の時に、１６日間は時間に換算すると３８４時間です。そのうち、睡眠時間や食事・入浴時間など絶対に削ることができない時間を差し引くと、わずか２５６時間ぐらいしかありません。そのため、時間を有効に使いましょう。特に勉強は、『何時までにこれを終える』とか『５分間で英単語を２０個覚える』とか『２０分で問題集を３ページ終わらせる』とか、あらかじめ時間を決めて取り組むと良いでしょうという話をしました。

どうでしたか、自分なりの工夫で有意義な取組ができたでしょうか。効果を上げるやり方は、一つではありませんので、自分なりのやり方を見つけられた人がいたら、それは素晴ら

しいことだと思います。大切なことは、「自分なりの努力の仕方を身に付けること」なのです。

さて、今日から始まる２学期は、１年で一番長い学期です。まだ不確実なところがありますが、合唱祭や１年生の校外学習も予定されています。そして、各教科の学習もどんどん先に進みます。仲間と共に活動することで互いを高めあう機会が多くあります。その際に皆さんに心がけてほしいことが２つあります。

それは、『思いやりの心をもつこと』と『感謝の気持ちを言葉に表すこと』です。『思いやりの心をもつ』とは、自分が行動するときに、常に相手のことを考え、行動するということです。『自分がこうしたら相手はどう思うか、感じるか』『自分がされたら嫌なことは相手にしない』など、人間関係を良好に保つために大切なことです。そして、『感謝の気持ちを言葉に表すこと』とは、『人から、自分に向けられた好意に、素直に感謝すること』さらに『ありがとう』とその時の気持ちを言葉にすることが大切です。『ありがとう』と言われれば、『どういたしまして』『わざわざお礼を言われるようなことじゃないよ』などと会話がつながり、よりよい関係が築かれるきっかけとなるでしょう。

特に、新型コロナウイルスの感染が終息しない現在、この『思いやりの心をもつこと』と『感謝の気持ちを言葉に表すこと』は重要だと思います。現在、新型コロナウイルス感染症が全国に感染拡大する中、感染者、濃厚接触者、医療関係者等とその家族に対して、偏見や差別につながるような行為が起きています。消毒、手洗いの徹底、マスクの着用など精一杯の感染症予防の対応をしていたとしても、感染症に罹患してしまうことは誰にでも起こりうることであり、偏見や差別意識をもつことは、人として決して許されることではありません。最近のニュースで、部活動で集団感染が起きたある高校では、『学校をつぶせ』とか『日本から出ていけ』などの誹謗中傷がネットに書き込まれたり、嫌がらせの電話が相次いだりしていると言われています。また、同様に部活動で集団感染が起きてしまった大学では、その部活動とは関係のない同じ大学に通う学生に対して『アルバイトをやめてほしい』などと要求されたりしたとも報道されています。このようなことは絶対にあってはならないことです。一番辛い思いをしているのは、ご本人やそのご家族であり、その不安や辛さを取り除いたり和らげたりすることに協力してあげなければならないのに、偏見や差別でさらに苦しめられたらと思うと痛たまれない気持ちになります。皆さんもくれぐれも気を付けてほしいと思います。」

台風19号による浸水被害の復旧工事の終了について

昨年１０月の台風１９号により浸水被害を受けたことにより、都合７期にわたって工事を行ってきましたが、８月２３日（日）に全て無事終了いたしました。今回の工事箇所は１階の２年生の昇降口付近の廊下、及び２階の２年Ｂ組・Ｃ組教室の床、２年教室前の廊下等でした。保護者や地域の皆様には、長らくご心配をおかけしましたが、ようやく全面復旧を果たし、施設・設備面での制約を受けることなく、教育活動が行えることとなります。今後とも学校施設の維持管理に万全を期してまいりますので、これからもご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。